

## 第 401 回 (576 回) 〈読書会〉 例会資料『クリスマスの音楽』

2023 年 12 月 23 日 (土) 午後 2 時-4 時

作成 清原章夫

### 1. グレゴリオ聖歌 (9~10 世紀ごろ) クリスマス日中のミサより入祭唱「幼児が」

- (1) 演奏 ドン・ジャン・クレール指揮 サン・ピエール・ド・ソレム修道院聖歌隊 演奏時間：約 2 分 30 秒
- (2) 解説 グレゴリア聖歌とは、ローマ・カトリック教会で典礼に用いられる伝統的な単旋律の聖歌。ラテン語典文を歌詞とし、全音階的な旋法（教会旋法）と流動的なリズムをもつ。源流はユダヤの典礼音楽で、それがギリシアの影響を受けて発展、グレゴリウス 1 世によって収集制定されたといわれ、グレゴリオ聖歌という名称が生じた。  
キリスト教の教会、とくにローマ・カトリック教会のクリスマスにはキリストの降誕を祝って真夜中のミサ、夜明けのミサ、日中のミサの 3 つのミサ聖祭がおこなわれる。
- (3) 歌詞 幼子がわれらがために生まれ、息子がわれらに与えられし：その王権はその肩の上であり：その名は呼ばれる、大いなる忠告の御使いと。—主に新しき歌を歌え、主は奇しき業をなしたもうたゆえ。

### 2. プチ・パパ・ノエル (フランス語)

- (1) 演奏 歌：ティノ・ロッシ 録音：1946 年 演奏時間：3'09
- (2) 解説 1946 年の Destins という映画の中でティノ・ロッシが歌った。フランスの子供たちに最も人気がありレコードはフランスでベストセラーになった。
- (3) 歌詞 それは美しいクリスマスの夜 雪は白いコートを広げ 子どもたちの瞳は空に向けられる  
子どもたちはひざまづき まぶたを閉じるまえに 最後のお祈りをする

### 3. ホワイト・クリスマス (英語)

- (1) 演奏 歌：ビング・クロスビー 演奏時間：約 3 分
- (2) 解説 アーヴィング・バーリンの作詞作曲。1954 年のアメリカ合衆国の映画の主題歌にも使われた。ビング・クロスビーが歌い、シングルレコードの売り上げが歴代トップの 5000 万枚とされている。
- (3) 歌詞 昔体験したような ホワイトクリスマス を 夢見ている 梢が輝き 子供たちが雪の中のそりの鐘の音に耳を澄ますのさ ホワイト・クリスマス を 夢見てる クリスマス・カードすべてに書くさ 楽しくてきらめくような日々があなたに訪れますように そしてホワイト・クリスマス になりますようにってね ホワイトクリスマス を 夢見ている 梢が輝き 子供たちが雪の中のそりの鐘の音に耳を澄ますのさ ホワイト・クリスマス を 夢見てる クリスマス・カードすべてに書くさ 楽しくてきらめくような日々があなたに訪れますように そしてホワイト・クリスマス になりますようにってね

### 4. ホワイト・クリスマス (フランス語)

- (1) 演奏 歌：ジョン・ウィリアム 演奏時間：約 3 分
- (2) 解説 原曲は英語だがフランス語で歌われた録音をお届けする。

### 5. ジングルベル (英語)

- (1) 演奏 歌：フランク・シナトラ 演奏時間：約 2 分 30 秒
- (2) 解説 1857 年に牧師ジェームズ・ピアポント (James Pierpont/1822-1893) がジョージア州サヴァナの自分の教会で開かれた感謝祭のために作詞作曲した歌。  
タイトルは「一頭立てのソリ」だったがその後、「ジングルベル」に代わり全米に広がった。

- (3) 歌詞 雪の中を駆け抜ける 一頭立てのソリ 広がる雪原 あふれる笑い声 スズが鳴り渡れば  
いっそう明るく ソリの歌歌って楽しもう ジングルベル ジングルベル 鳴り渡れ  
ソリ遊びの楽しさよ ジングルベル ジングルベル 鳴り渡れ ソリ遊びの楽しさよ  
数日前の恥ずかしい話 雪の中を出かけ ひっくり返った話さ ちょうどソリで通りかかった紳士が  
横たわる僕を見て笑い すぐにどこかへ行っちゃった 外は雪の世界 ソリをするなら若いうち  
今夜彼女を誘って ソリの歌を歌おう 切り尾の馬に2ドル50セント賭けて  
ソリにつないでピシャリと打てば走り出す

#### 6. あら野の果てに (民謡)

- (1) 演奏 ラインホルト・シュミット指揮 ウィーン楽友協会合唱団 録音：1961年 演奏時間：1'29  
(2) 解説 フランス北東部ロレーヌ地方南部ラングドック地方に18世紀から伝わるクリスマス・キャロル。  
(3) 歌詞 いと高き天より我らは聞きたり 天使たちの甘美な歌が野辺に満ちるのを 山々は歌声に答え  
喜びに満ちし旋律が木霊せり (斉唱)：いと高き処、神に栄光あれ いと高き処、神に栄光あれ  
羊飼いや、この祝祭は何の故か？ 汝らの喜びに満ちし旋律は何故続くのか？  
いかなる喜びの便りもて この神々しい歌を汝らは歌うのか？ (斉唱)  
ベツレヘムに来たりて見よ 天使が歌にて誕生を知らせしキリストを 来たりて、跪いて拝め 主キリス  
ト、新たな王の誕生を (斉唱)

#### 7. もみの木 (民謡)

- (1) 演奏 ラインホルト・シュミット指揮 ウィーン楽友協会合唱団 録音：1961年 演奏時間：1'51  
(2) 解説 ドイツで古くから愛唱されているクリスマス・キャロルで、常緑樹としてのもみの木の緑が永遠の生  
命を象徴している。  
(3) 歌詞 おお、モミの木よ、おお、モミの木よ そなたの葉はなんと変わらずあり続けることか 夏場だけではで  
なく 雪の降る冬でも青々としている おお、モミの木よ、おお、モミの木よ  
そなたの葉はなんと青々としていることか！  
おお、モミの木よ、おお、モミの木よ そなたはじつに私の気に入った！ 冬場に、幾度となく そなた  
の木が私を深く喜ばせたことか！ おお、モミの木よ、おお、モミの木よ  
そなたはじつに私の気に入った！  
おお、モミの木よ、おお、モミの木よ そなたの葉は私に何かを教えてくれる 希望と持続が 勇気と力  
をいつでも与えてくれる！ おお、モミの木よ、おお、モミの木よ  
そなたの葉は私に何かを教えてくれる

#### 8. アヴェ・マリア (シューベルト)

- (1) 演奏 レオンタイン・プライス：ソプラノ ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ウィーン・フィルハーモニー  
管弦楽団 録音：1961年 演奏時間：5'23  
(2) 解説 シューベルト28歳の作品で、イギリスの詩人スコットの『湖上の美人』の中の第6番からとられた。  
(3) 歌詞 アヴェ・マリア わが君 野の果てに嘆こう 乙女が祈りを あわれと聞かせたまえ  
御許に安らげく 憩わしめたまえ 悩めるこの心 君に祈(ね)ぎまつる アヴェ・マリア  
アヴェ・マリア わが君 巖(いわお)の臥所(ふしど)にも 君が恵みのもと 安けき夢はあらん  
君笑(え)ませたまえば 花の香は絶えじ 頼るべきなき乙女君に 祈ぎまつるアヴェ・マリア  
アヴェ・マリア わが君 禍(まが)つ日の恐れも 君が御光(みひかり)に 雲と散りて消えん  
ひしがれし心を 君癒したまえ 限りなき信仰(しん)をもて 君に祈ぎまつる アヴェ・マリア

慈悲深き乙女よ おお 聞き給え 乙女の祈り 荒んだ者にも汝は耳を傾け 絶望の底からも救い給う

#### 9. アヴェ・マリア (J. S. バッハ、グノー)

- (1)演奏 レオンタイン・プライス：ソプラノ ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 録音：1961年 演奏時間：2'38
- (2)解説 フランスの作曲家グノーがバッハの『平均律クラヴィーア曲集』第一巻の第一番ハ長調の前奏曲を伴奏に用いて旋律を作曲した。歌詞はカトリック教会の祈禱文『アヴェ・マリア』を添えた。
- (3)歌詞 おめでとう マリア 恩寵満ちたるお方 主はあなたとともにおられます  
あなたは女人のなかで祝福され ご胎内の御子イエスも祝福されています 聖なるマリア マリアよ  
罪深いわたしたちのために 今も そして死を迎える時も祈ってください アーメン

#### 10. 三人の王の行進(フランス語)

- (1)演奏 歌：ティノ・ロッシ 演奏時間：約2分
- (2)解説 フランス南部プロヴァンス地方に伝わるフランス民謡。王とは新約聖書に登場するイエス・キリストの誕生時に来訪した「東方の三博士(三賢者・三賢人)」。ビゼーのアールの女の行進曲の原曲。
- (3)歌詞 良い朝に出会った一行は 旅を続ける三人の王 良い朝に出会った一行は 広い道を行く三人の王  
先を行くのは護衛の者たち 30人の従者を従えて 先を行くのは護衛の者たち 武器を掲げて進みゆく  
旗がひしめくなか チャリオットが行く 天使の如く清淑な三人の王を乗せて 旗がひしめくなか  
チャリオットが行く 彼らはメルキオール、バルタザール、そしてガスパール  
星は輝き 王を導く 貧しい厩へ続く長い道のり 星は輝き 王を導く 貧しい厩へたどり着くまで  
この地で生まれし神の御子 敬い崇めんと王は来れりこの地で生まれし神の御子  
甘美なる希望を贈りに 黄金、没薬、乳香 美しき贈物 愛しき御子のために 黄金、没薬、乳香  
美しき贈物 神聖なる御子のために

#### 11. ハレルヤ『メサイアより』(ヘンデル)

- (1)演奏 トレヴァー・ピノック指揮 イングリッシュ・コンサート 演奏時間：約4分
- (2)解説 ヘンデルが作曲したオラトリオ。『メサイア』は「メシア」(救世主)の英語読みに由来。オラトリオは聖書から歌詞を取り、イエス・キリストの生涯を題材とした独唱曲・重唱曲・合唱曲で構成されている。1741年8月22日から9月14日までのわずか24日間で書き上げている。  
第2部最終曲の「ハレルヤ(神をほめたたえよ)」(通称「ハレルヤコーラス」)は特に有名である。
- (3)歌詞 ハレルヤ、全能の主、われらの神は統治(すべし)ら すなり  
この世の国は我らの主(しゅ) および其(そ)のキリストの国となれり。彼は世々限(よよかぎ)りなく王たらん 王の王、主の主と記(しる)せる名あり。

#### 12. きよしこの夜(グルーパー)

- (1)演奏 ドレスデン聖十字架合唱団 マティアス・ユング指揮 演奏時間：約3分30秒
- (2)解説 ザルツブルク近郊のオルガニストであつたフランツ・グルーパーが、友人の神父ヨーゼフ・モールの詩に1818年のクリスマス直前に作曲した。当時、教会のオルガンが故障していたため、グルーパーは愛用のギターで作曲した。
- (3)歌詞 きよしこのよる 星はひかり、すくいのみ子は まぶねの中にねむりたもう、いとやすく。  
きよしこのよる み告げうけしまきびとたちは み子のみ前にぬかずきぬ、かしくみて。  
きよしこのよる み子の笑みに、めぐみの み代の あしたのひかりかがやけり、ほがらかに。